

高齢期の暮らしと仕事に関する調査 〈 報 告 書 〉

瀬戸内市／岡山商科大学

目 次

第1章 調査の趣旨、実施方法.....	2
1 本調査の趣旨・目的.....	2
2 調査名.....	2
3 実施方法.....	2
4 回収状況.....	2
第2章 調査結果の概要.....	4
1 回答者の現在の就業・勤務状況.....	4
(1) 現在の仕事.....	4
(2) 仕事の内容.....	6
(3) 社会貢献活動への参加状況.....	6
(4) 収入について.....	7
2 回答者の定年前の就業状態について.....	7
(1) 定年前後の雇用関係.....	7
(2) 定年前の会社について.....	9
(3) 定年前の仕事内容について.....	10
(4) 勤め先に対する要望.....	10
3 高齢期のくらしと仕事について.....	11
(1) 高齢期のくらしに関する意識.....	11
(2) 高齢期の労働に関する意識.....	13
(3) 高齢期の趣味や自由時間に関する意識.....	13
(4) 社会的貢献活動に関する意識.....	14
4 高齢期の就業・ボランティア活動に関する相談窓口について.....	15
(1) 高齢期の就業の必要性について.....	15
(2) 中・高年齢者の職業紹介窓口.....	15
(3) ボランティア活動について.....	17
(4) 就業先やボランティア活動の相談窓口について.....	18

第1章 調査の趣旨、実施方法

1 本調査の趣旨・目的

2006年の改正高齢者雇用安定法により、企業は労働者が望めば年金支給開始年齢までの雇用確保措置を取らなければならなくなった。公的年金の支給開始年齢は、3年に1歳ずつ引き上げられ、2025年には基礎年金部分と報酬比例部分ともに65歳に引き上げられる予定である。労働者が望めば65歳までの雇用が保証されることから、高齢者の雇用問題は、ひとつは65歳までの定年延長であり、いまひとつは65歳～69歳層の雇用をいかに促進するかである。当面、65歳～69歳層に望めば雇用が確保されるようことが重要である。65歳～69歳層では、会社や団体における雇用されるという形態も考えられるが、それ以外の任意就業やいわゆる生きがい就労も重要となってくる。さらに、雇用労働だけでなく、地域の社会貢献活動やボランティアなどに参加することも地域の社会機能を維持する担い手や高齢者の社会とのつながりを確保する上で重要である。

このため、本調査では、瀬戸内市に在住する55歳～75歳の中高齢者を対象に、定年前後の就業状態に関する実態、生きがい就労や能力開発、高齢期の生活に関する意識などについて、郵送調査を実施した。

2 調査名

「高齢期のくらしと仕事に関する調査」

3 実施方法

- (1) 調査方法：郵送調査
- (2) 調査実施委任機関：瀬戸内市役所
- (3) 調査実施期間：2018年10月18日から11月8日
- (4) 調査対象：瀬戸内市在住の55歳以上、75歳以下の者から層化無作為抽出により選出された2000人。ただし、次の者は除く（愛生園・光明園、外国人、DV等支援措置対象者）。
- (5) 抽出条件：地区（投票区）ごとに、対象年齢の人口比率により抽出する。
男女比は、全体比率により抽出する。
同一世帯からは、1人のみ抽出する。

4 回収状況

発送数は2000人

回収数は1131票（回収率56.5%）

有効回答数は無効票を除く1130人（有効回答率56.5%）

なお、地域別、性・年齢別の回収状況は以下のとおりである。

牛窓町						
	55歳～59歳	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳以上	年齢不詳	合計
男性	9	16	26	40	2	93
女性	8	30	32	41	4	115
性別不詳	0	0	0	0	0	0
合計	17	46	58	81	6	208

邑久町(裳掛・玉津以外)						
	55歳～59歳	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳以上	年齢不詳	合計
男性	45	50	56	80	1	232
女性	41	40	55	89	7	232
性別不詳	0	0	0	1	0	1
合計	86	90	111	170	8	465

邑久町(裳掛・玉津)						
	55歳～59歳	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳以上	年齢不詳	合計
男性	7	12	8	14	0	41
女性	3	7	16	19	2	47
性別不詳	0	0	0	0	0	0
合計	10	19	24	33	2	88

長船町						
	55歳～59歳	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳以上	年齢不詳	合計
男性	41	29	36	58	3	167
女性	35	35	42	68	4	184
性別不詳	0	0	0	2	0	2
合計	76	64	78	128	7	353

第2章 調査結果の概要

1 回答者の現在の就業・勤務状況

(1) 現在の仕事

現在（平成30年9月時点）収入のある仕事をしているか、また仕事がある場合にはどのような仕事をしているかを尋ねたところ、「仕事がある」と回答した者が572名（全体の52.4%）となった。回答者のほぼ半数が働いていることになる。就業形態別では、「パート・契約社員・派遣」が最多で157名（14.3%）、次いで「正規雇用者（役員を除く）」が137名（12.6%）、「自営業（農林漁業）」が66名（6%）、「自営業（商店・工場）」が66名（6%）という内訳になっている（図表2-1-1）。

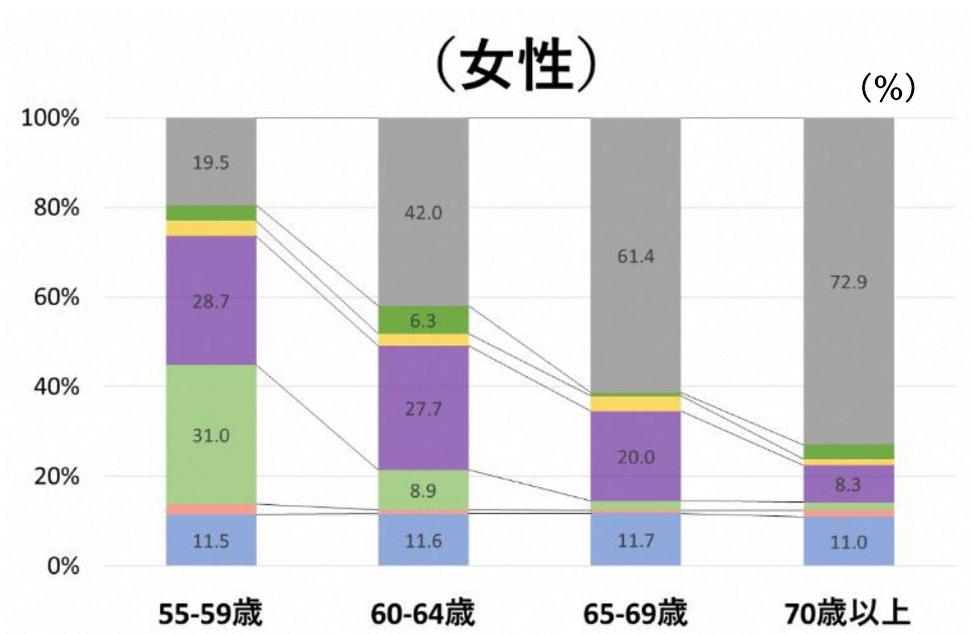
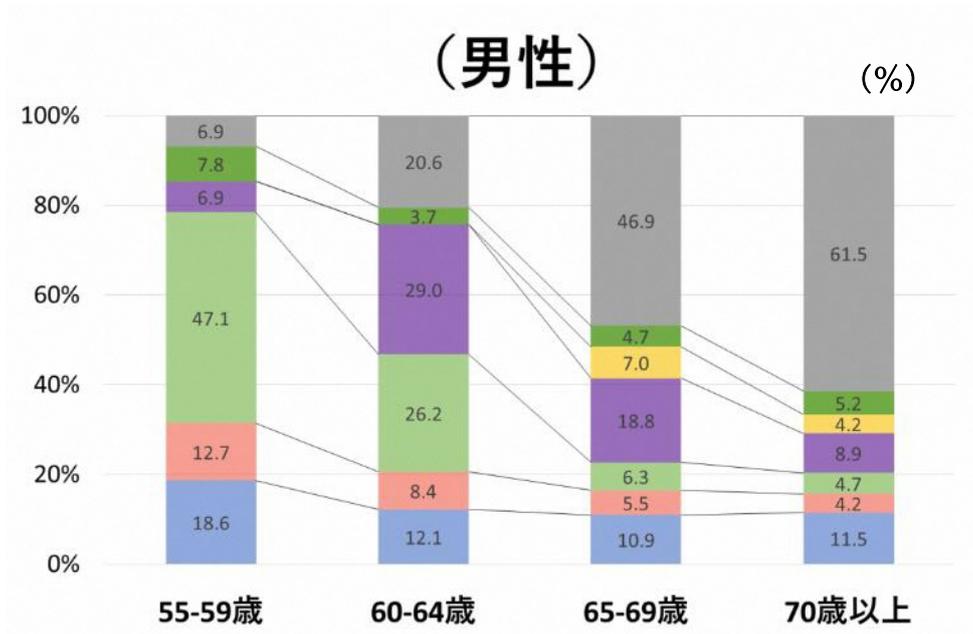
図表2-1-1 回答者の現在の仕事

主な仕事	男女計	男性					女性				
		55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上	合計	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上	合計
自営業（農林漁業の自家営業）	66	7	7	8	13	35	4	5	8	14	31
自営業（商店、工場などの自家営業）	66	12	6	6	9	33	6	8	9	10	33
会社、団体などの役員	44	13	9	7	8	37	2	1	1	3	7
会社、団体などに雇われている正規雇用者（役員を除く）	137	48	28	8	9	93	27	10	3	4	44
会社の嘱託	25	1	12	4	2	19	1	1	1	3	6
パート・契約社員・派遣	157	6	19	20	15	60	24	30	28	15	97
家庭での内職	6	0	0	1	0	1	2	1	2	0	5
シルバー人材センターの仕事	14	0	0	4	7	11	0	0	2	1	3
近所の人や会社から頼まれて、任意に行う仕事	11	0	0	4	1	5	1	2	1	2	6
その他	46	8	4	6	10	28	3	7	1	7	18
就業者計	572	95	85	68	74	322	70	65	56	59	250
合計（無回答含む）	1091	102	107	128	192	529	87	112	145	218	562

※性・年齢不詳を除く

性・年齢別の就業率をみると、男性では「55～59」歳が93.1%と最も高く、「60～64歳」で79.4%、「65～69歳」で53.1%、「70歳以上」で38.5%と、年齢とともに低下している。一方、女性に関しては、各年代の就業率が男性より10～20%程度低く推移している。特に、「60～64歳」での就業率の減少が著しく、その背景には正規雇用者の定年後の継続雇用を選択する者が男性ほど多くない可能性が考えられる（図表2-1-2）。

図表2-1-2 男女別の就業形態

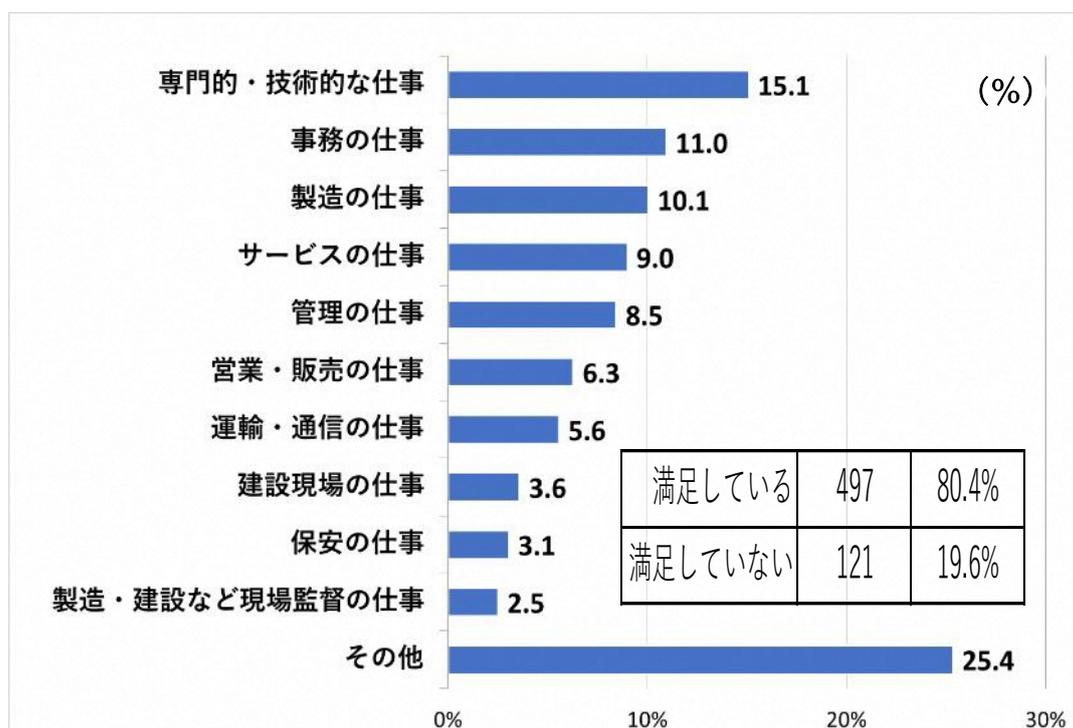


- 自営業
- 役員
- 正規雇用者
- パート・嘱託・契約社員・派遣
- 内職・シルバー・任意就業
- その他
- 無業

(2) 仕事の内容

現在就業している人を対象として現在の仕事の内容（職種）について尋ねたところ、1位が「専門的・技術的な仕事」で15.1%、2位が「事務の仕事」が11%、3位が「製造の仕事」で10.1%であり、それ以外の職種では10%未満の水準であった。また、現在の仕事に対する満足度を尋ねたところ、「満足している」が80.4%で、「満足していない」の19.6%を大きく上回る。（図表2-1-3）。

図表2-1-3 現在の仕事内容（職種）と満足度



(3) 社会貢献活動への参加状況

現在、地域活動やボランティア活動などの社会貢献活動に参加しているか尋ねたところ、全体の21.7%が参加していると回答した。参加者の内訳をみると、男性が24.5%で、女性の19.6%を上回った。男女を通して年齢が高くなるほど参加率が増加しており、70歳以上では約1割の人が社会貢献活動に参加をしている（図表2-1-4）。

社会貢献活動の内容としては、草刈りなどの地域清掃活動や自治会活動の回答が多く、民生委員や愛育委員などの福祉活動、老人ホームや施設での慰問（歌やダンスの披露）、災害ボランティアなど活動の幅は多岐にわたっている。

図表 2-1-4 社会貢献活動への参加

参加	男性		女性	
	人数	割合	人数	割合
55-59歳	19	3.6%	14	2.5%
60-64歳	26	4.9%	21	3.7%
65-69歳	31	5.9%	23	4.1%
70歳以上	51	9.7%	51	9.0%
年齢不詳	2	0.7%	2	0.4%
不参加	397	75.5%	454	80.4%

(4) 収入について

現在、仕事から得た収入があると回答した人（543名）を対象に、月当たりの収入額を尋ねたところ、該当者の89.9%が回答し、中央値は18万円であった。年齢別にみると、「55～59歳」で28万円、「60～64歳」で18.5万円、「65～69歳」で14万円、「70歳以上」では10万円となっており、年を重ねるごとに勤労所得は減少している。

また、年金の受給状況を尋ねたところ、年金を受給していると回答した者が840名おり、受給額の中央値はそれぞれ、公的年金が10万円、企業年金が8.2万円、個人年金が5万円となっている（図表2-1-5）。

図表 2-1-5 現在の収入について

	中央値(万円/月)	回答者数	回答率
就労所得	18	488	89.9%
仕事・年金以外の所得額	10	80	87.9%
公的年金の受給額	10	645	76.8%
企業年金の受給額	6	82	
個人年金の受給額	5	96	

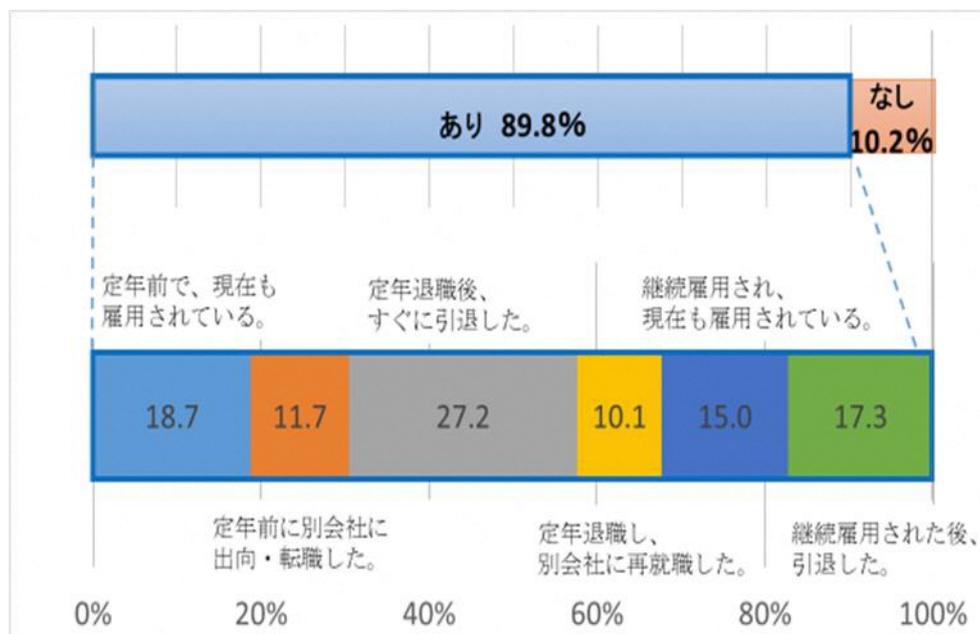
2 回答者の定年前の就業状態について

(1) 定年前後の雇用関係

55歳当時に正社員として雇われていた人（587名）を対象に、定年制度の有無を尋ねたところ、「定年あり」が89.8%であった。定年年齢をみると、「60歳」が82.1%で、「65歳」が8.9%となっており、この2つの区分で9割を占めており、定年の波が大・小2つあることが分かる。また、定年前後の雇用関係の変化で最も多かったのが「定年退職後、すぐに引

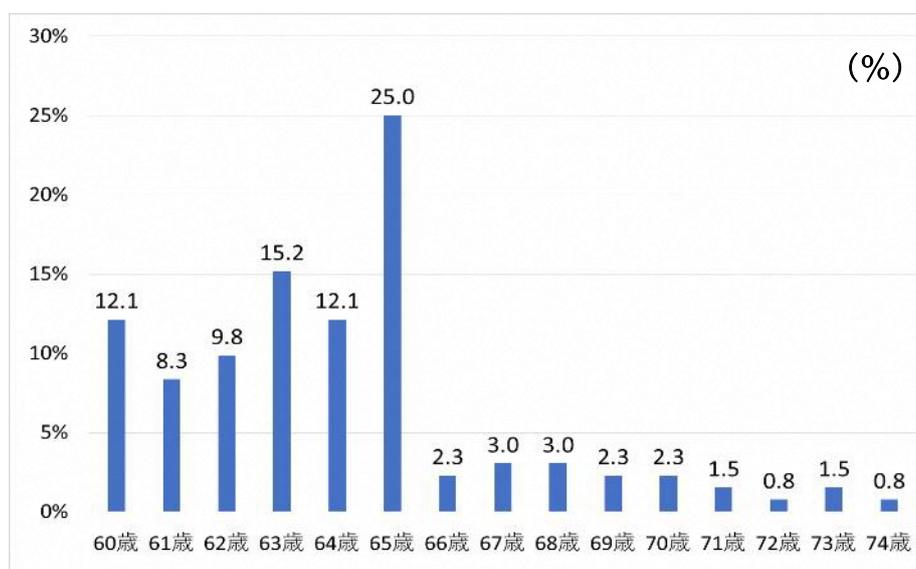
退した」で27.2%、次いで「定年前で、現在も雇用されている」が18.7%、「継続雇用された後、引退した」が17.3%と続いている（図表2-2-1）。

図表2-2-1 定年の有無と雇用関係の変化



また、定年後に継続雇用された人（132名）を対象として、何歳で退職したかを尋ねたところ、1位が「65歳」が25%、2位が「63歳」で15.2%、3位が「60歳」と「64歳」で12.1%となっている（図表2-2-2）。

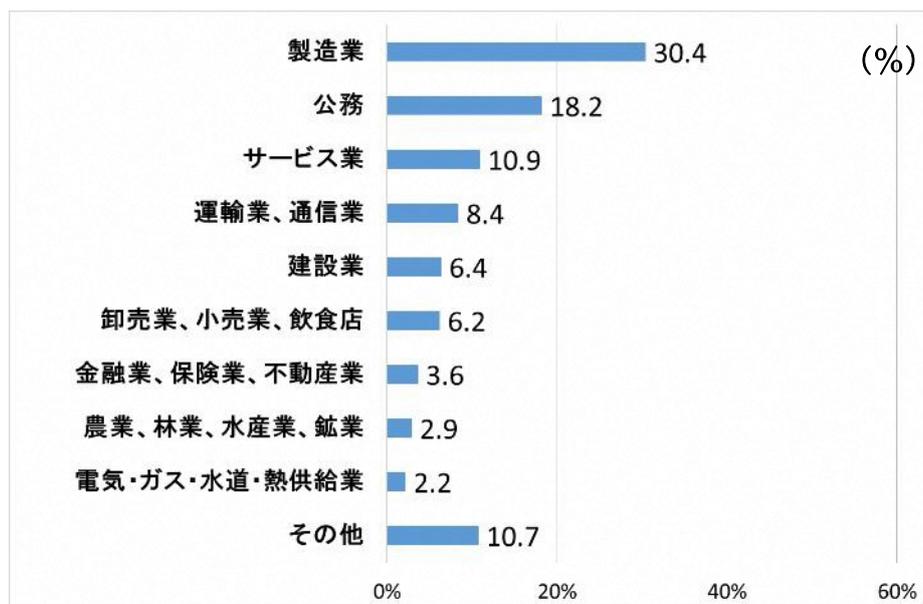
図表2-2-2 定年後継続雇用された後、何歳で退職したか



(2) 定年前の会社について

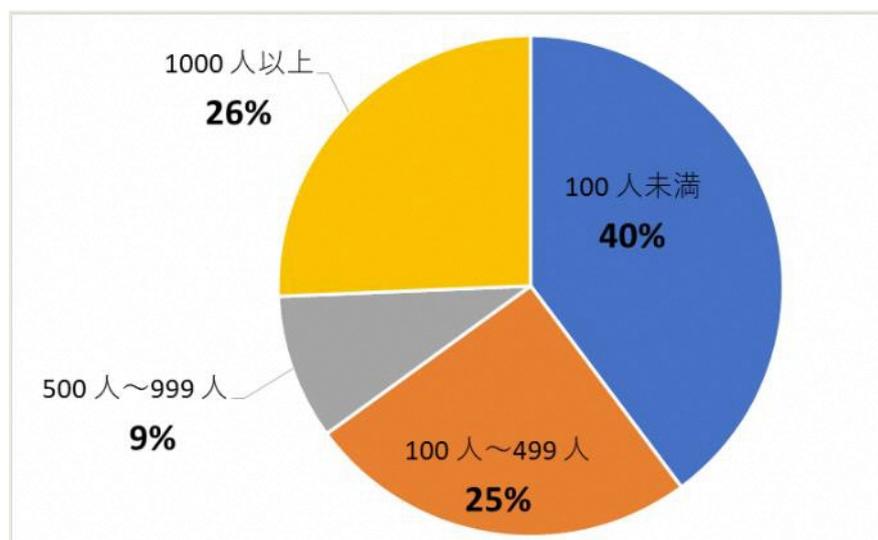
55歳当時正社員として働いていた人（587名）を対象に、当時の勤め先について尋ねたところ、「製造業」が最多で28.5%、次いで「公務」が17.1%、「サービス業」が10.3%となり、その他の産業は10%未満の水準であった（図表2-2-3）。

図2-2-3 定年前企業の業種



また、勤め先の企業規模を尋ねたところ、「100人未満」が最多で40%、「1000人以上」が26%、「100人～499人」が25%と続いている（図表2-2-4）。

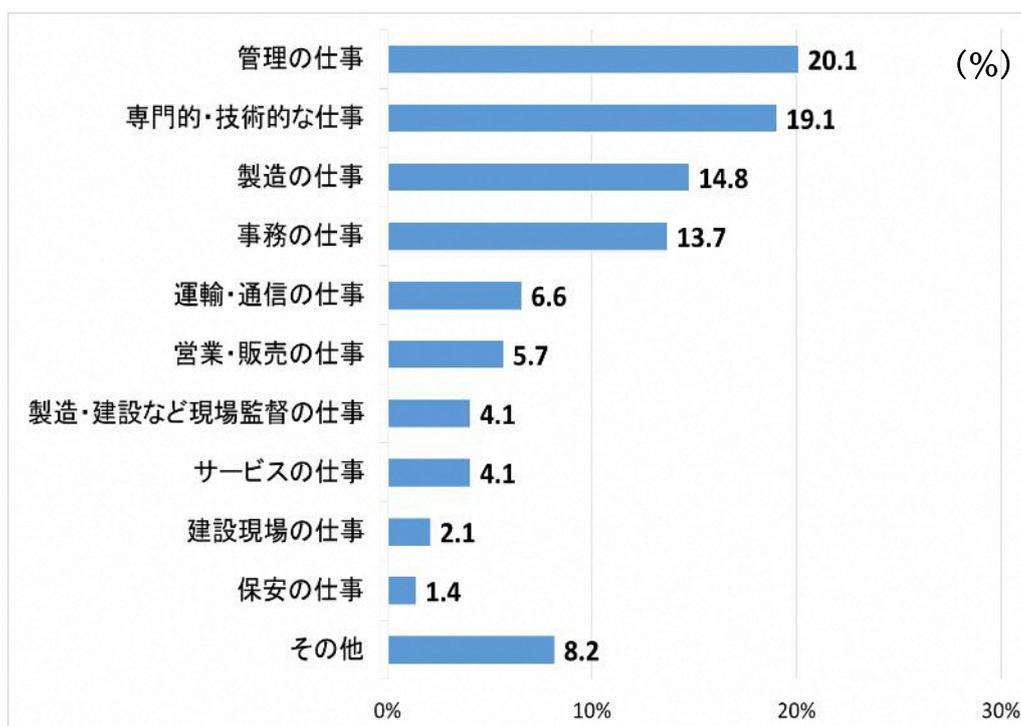
図2-2-4 定年前の企業規模



(3) 定年前の仕事内容について

55歳当時正社員として働いていた人を対象に、当時の仕事内容について尋ねたところ、1位が「管理の仕事」で20.1%、2位が「専門的・技術的な仕事」で19.1%、3位が「製造の仕事」で14.8%、4位が「事務の仕事」で13.7%、その他の職種は10%以下の水準となっている（図表2-2-4）。

図2-2-4 定年前の仕事内容



(4) 勤め先に対する要望

55歳当時正社員として働いていた人を対象に、勤め先にやって欲しかった（欲しい）ことについて尋ねたところ、1位が「健康への気配り」で25.8%、2位が「退職金・年金の充実」で24.7%、3位が「独立開業のため何らかの援助」で15.6%、4位が「スペシャリストとしての専門能力習得の支援」で13.3%、5位が「定年前と同じ勤務条件での継続勤務」と「グループ内の企業での就業機会の提供」で10.6%となっている。

また、勤め先への要望と実際の乖離（差）を見たときに、過不足が生じているものは、1位が「健康管理の気配り」で12.9%のマイナス、2位が「スペシャリストとしての専門能力習得の支援」で6.1%のマイナス、3位が「定年前の早期退職や転職等をせずに定年まで勤務」で5.7%のマイナスとなっている（図表2-2-5）。

図 2-2-5 勤め先にやって欲しかったこと・やってくれたこと（複数回答）

	勤め先にやって 欲しかった（欲しい）こと	勤め先が やってくれたこと	差
健康管理の気配り	25.8%	12.9%	-12.9%
退職金・年金の充実	24.7%	22.2%	-2.5%
独立開業のため何らかの援助	15.6%	13.9%	-1.7%
スペシャリストとしての専門能力習得の支援	13.3%	7.2%	-6.1%
定年前と同じ勤務条件での継続勤務	10.6%	37.8%	27.1%
グループ内の企業での就業機会の提供	10.6%	7.2%	-3.4%
退職後の生活設計のため、講習や研修の機会・相談室の設置	10.4%	30.0%	19.5%
OB会などを活用し退職後も経験や能力を活かせる就業機会	9.7%	10.2%	0.6%
定年後再雇用・定年延長（継続雇用）の実施	8.9%	6.1%	-2.8%
退職後、他の会社に移っても役に立つような知識・技能の習得	8.9%	13.3%	4.4%
退職優遇制度の導入や内容の充実	8.9%	4.4%	-4.6%
退職後の再就職先の斡旋	8.0%	8.5%	0.6%
定年前の早期退職や転職などをせず定年まで勤務	6.8%	1.1%	-5.7%
60歳以降の短時間勤務の導入等多様な就業形態	0.8%	0.8%	0%
その他	6.3%	42.5%	36.2%

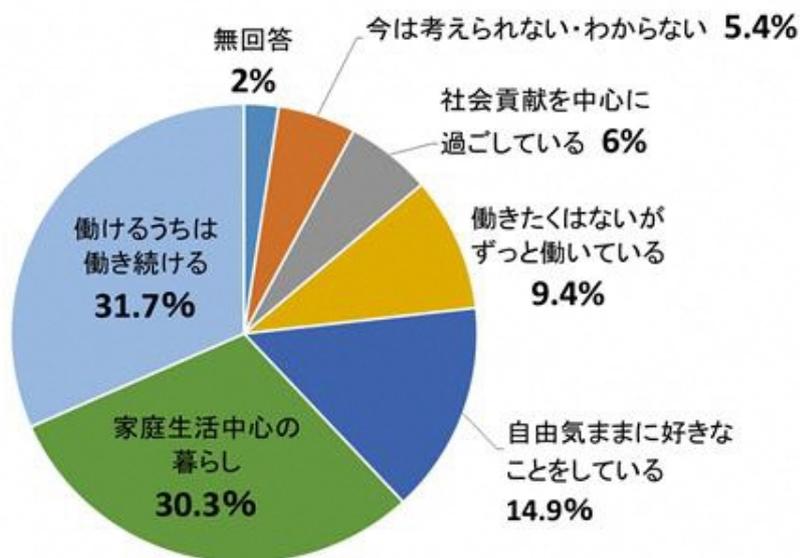
3 高齢期のくらしと仕事について

（1）高齢期のくらしに関する意識

全ての回答者（1130名）を対象にして、65歳以上になった時にどのような生活を送っているか尋ねたところ、最も多かったのが「働けるうちは働き続ける」で31.7%であった。「働きたくはないが、ずっと働いている」の9.4%を加えると、約4割の人が65歳以上になっても働く生活をイメージしていることが分かる。

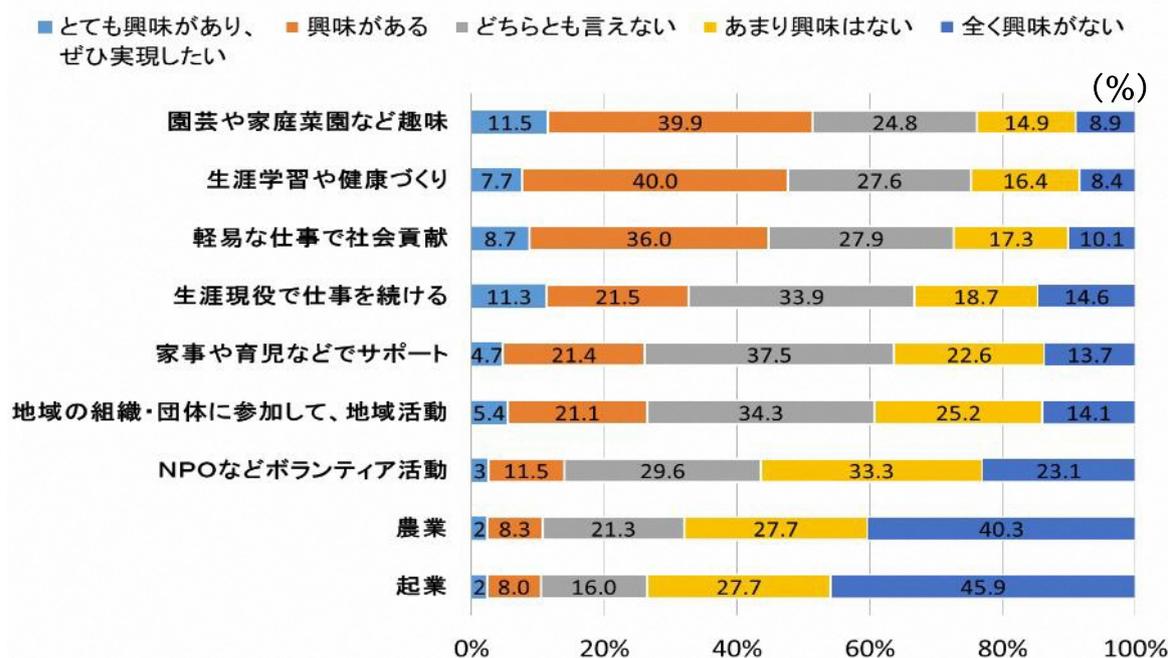
次いで「家庭生活中心の暮らし」が30.3%、「自由気ままに好きなことをしている」が14.9%と続いている（図表2-3-1）。

図 2-3-1 65 歳以上になった時、どのような生活を送っていると思うか



また、高齢期の生き方（パターン）への関心度を 5 段階評価で尋ねたところ、最も関心度が高かったのは「園芸や家庭菜園などの趣味」であった。区分が「とても興味があり、ぜひ実現したい」の該当者が 11.5%おり、「興味がある」の 39.9%と併せると、半数の人が興味あると回答している。関心度別でみると、「趣味」や「健康づくり」が、「生涯現役で仕事を続ける」を上回っている（図表 2-3-2）。

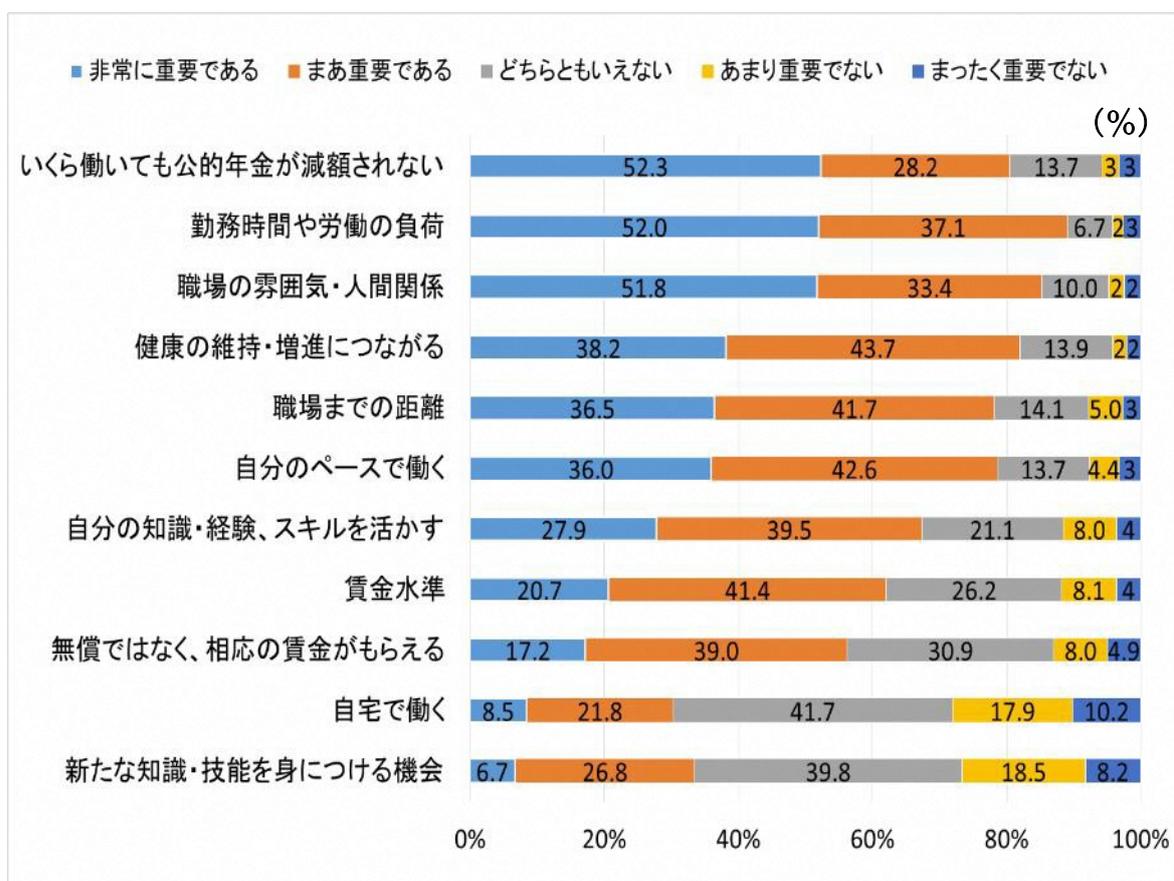
図 2-3-2 高齢期の生き方に関する意識



(2) 高齢期の労働に関する意識

全ての回答者を対象に、高齢期に働くにあたって重要だと思うことを5段階評価で尋ねたところ、区分が「非常に重要である」の該当率が最も高かったのは「いくら働いても公的年金が減額されない」の52.3%であった。「まあ重要である」の28.2%を合わせると、約8割の人が重視していることが分かる。在職老齢年金制度の支給停止基準が、高齢者の労働供給量に影響している可能性がある(図表2-3-3)。

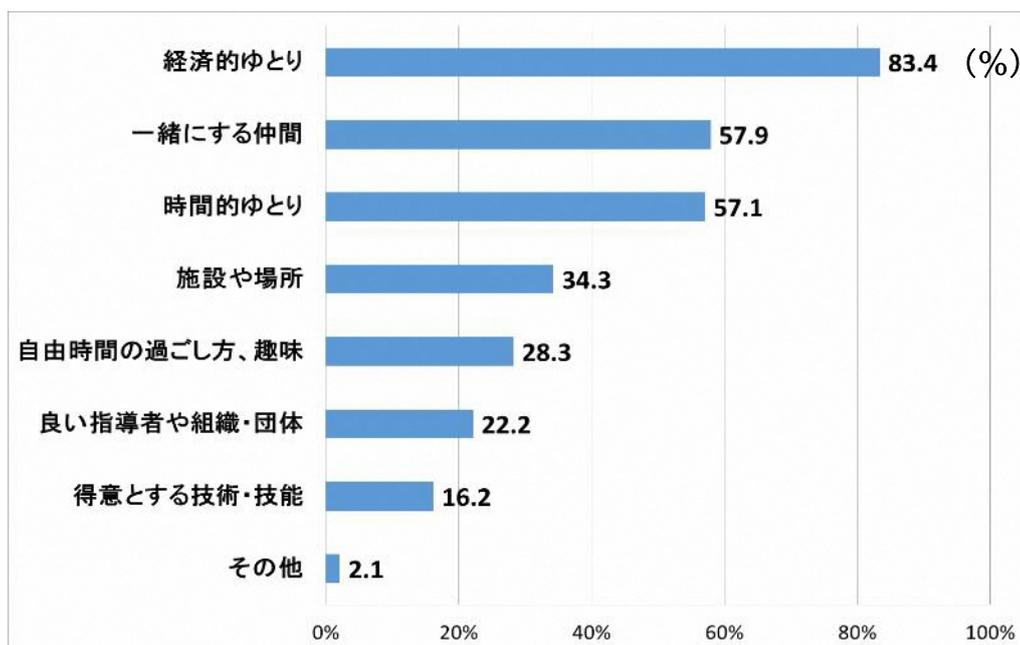
図2-3-3 高齢期に働くにあたってどれくらい重要と思うか



(3) 高齢期の趣味や自由時間に関する意識

すべての回答者を対象に、趣味などの活動や自由時間における活動を活発に行うために必要だと思うことを尋ねたところ、「経済的ゆとり」の81.2%が最多となっている。次いで「一緒にする仲間」が57.9%となっており、家族付き合いや近所付き合い、グループ活動への参加が余暇を過ごすうえで重要な要素となっている可能性がある。3位に「時間的ゆとり」が57.1%と続いている(図表2-3-4)。

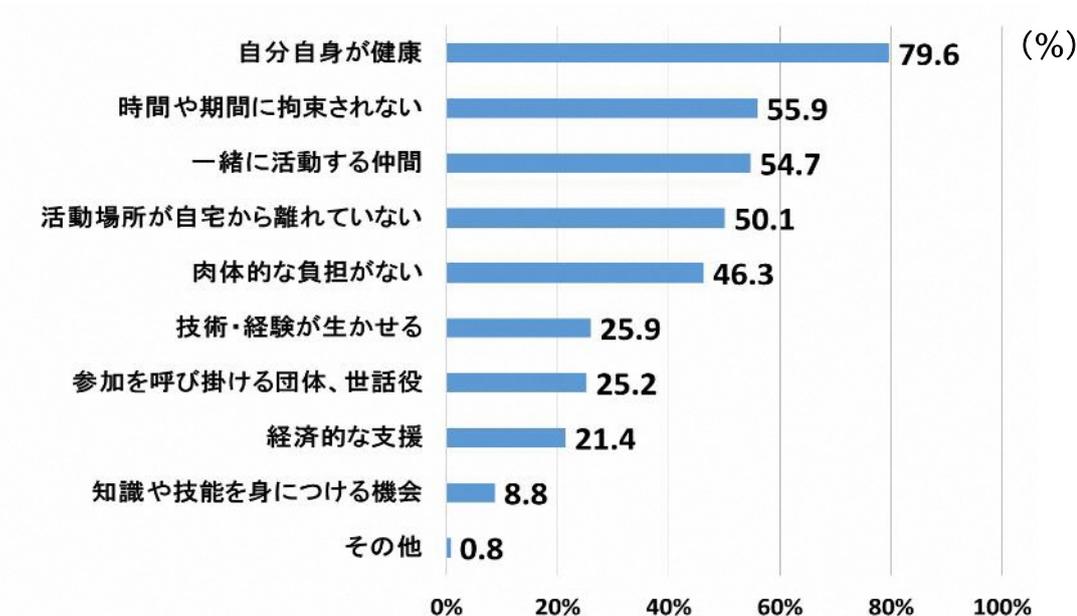
図 2-3-4 趣味などの活動を活発に行うために必要だと思うこと（複数回答）



（４）社会的貢献活動に関する意識

全ての回答者を対象に、社会貢献活動に参加するうえで必要な条件について尋ねたところ、「自分自身が健康」が最多で 79.6%となっており、2 位に「時間や期間に拘束されない」が 55.9%、3 位に「一緒に活動する仲間」が 54.7%という結果になった（図表 2-3-6）。

図 2-3-6 社会貢献活動に参加するために必要な条件（複数回答）



また、高齢者が社会貢献活動に参加するうえで、国や地方公共団体に対する要望について

尋ねたところ、「情報提供」が最多で43.9%、次いで「施設を利用しやすく」が34.8%で2位となっており、「活動者のための保険」が24.5%で3位と続いている（図表2-3-7）。

図2-3-6 社会貢献活動の参加に対する、国や地方公共団体への要望（複数回答）



4 高齢期の就業・ボランティア活動に関する相談窓口について

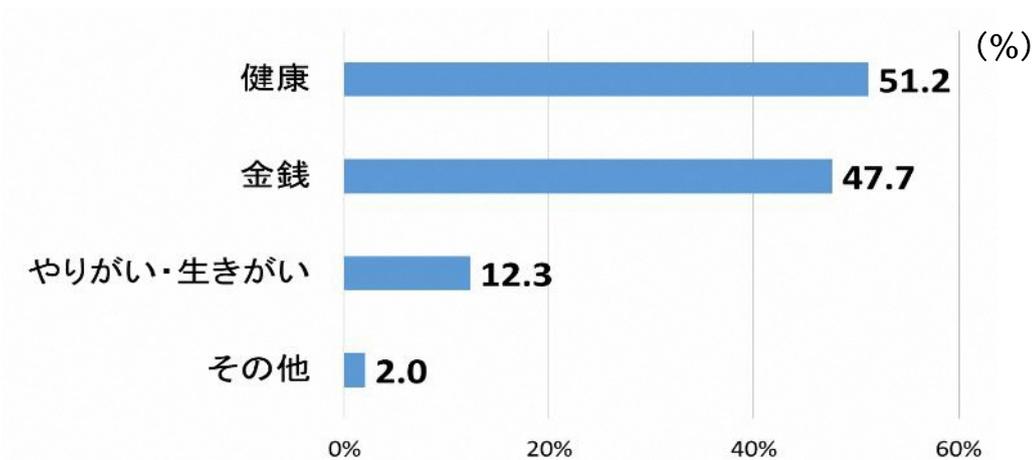
(1) 高齢期の就業の必要性について

全ての回答者を対象に、高齢期の生活において不安を感じているか尋ねたところ、「はい」が71.3%であった。その理由としては、「健康」の51.2%に次いで「金銭」が47.7%と、経済的な不安を訴える人が約半数いた（図表2-4-1）。また、全体の73.3%が、高齢期にいきいきと暮らすためには、年金に頼るのではなく就業等により所得を得ることが必要と回答している。

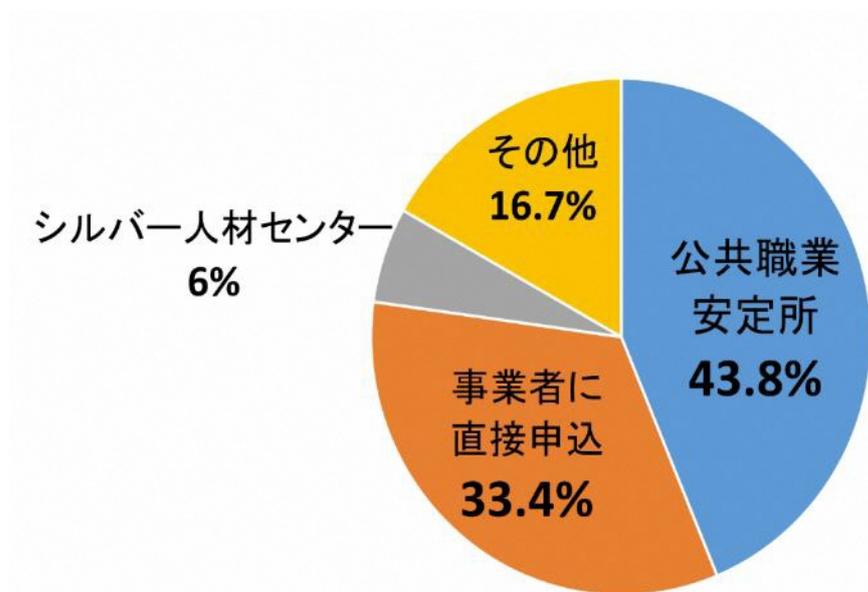
(2) 中・高年齢者の職業紹介窓口

55歳以降に、就業するために何らかの行動をしたことがある人（345名：全体の26.3%）を対象として、いずれの窓口を利用したか尋ねたところ、「公共職業安定所」が43.8%で最多となり、「事業者へ直接申込」（33.4%）、「シルバー人材センター」（6%）といった状況であった（図表2-4-2）。

図表2-4-1 高齢期の生活における不安要素（複数回答）

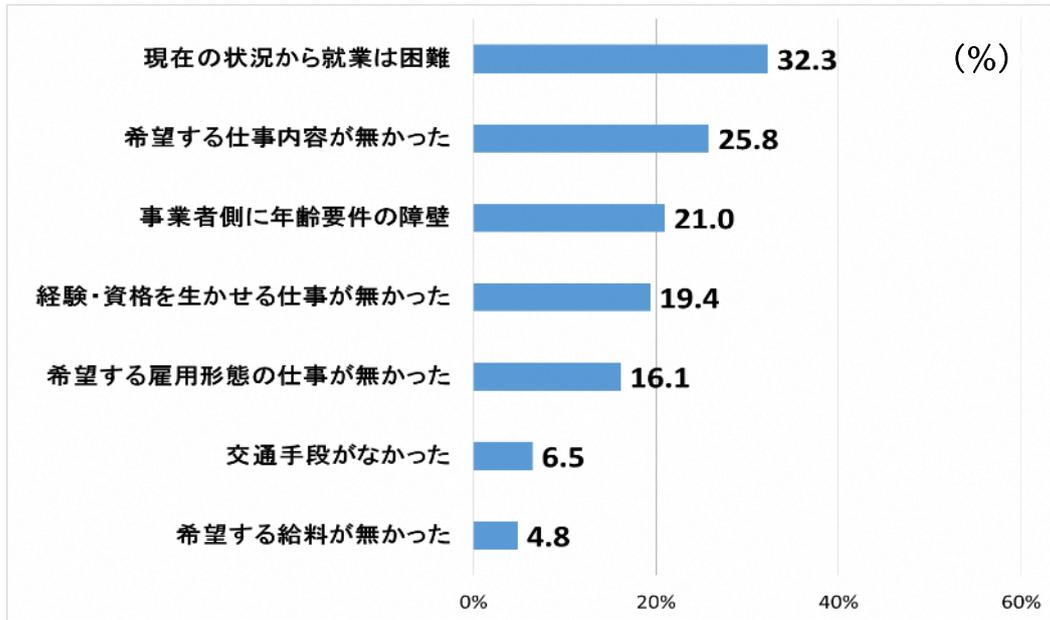


図表 2-4-2 就業を考えた時、いずれの窓口を利用したか



就業に向けて行動したにもかかわらず、就業に結びつかなかった人（62名）を対象に、どのような原因で就業に結びつかなかったと感じているかを尋ねたところ、「現在の状況からは就業が困難」が最多で 32.3%となり、その他の理由としては「希望する仕事内容が無かった」（25.8%）、「事業者側に年齢要件の障壁」（21%）、「経験・資格を生かせる仕事が無かった」（19.4%）、「希望する雇用形態の仕事が無かった」（16.1%）等が 20%前後であった（図表 2-4-3）。

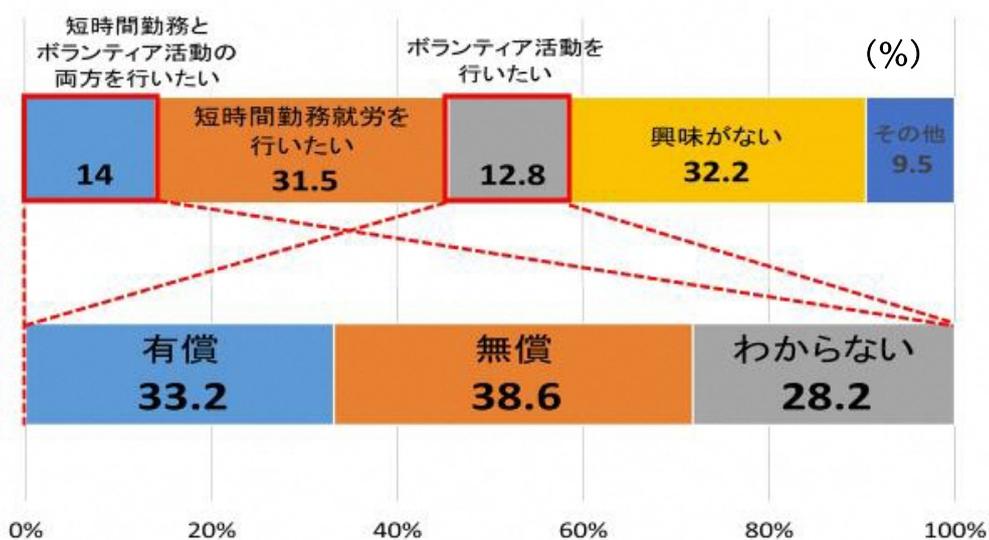
図表 2-4-2 就業に結びつかなかった原因（複数回答）



(3) ボランティア活動について

全ての回答者を対象に、短時間勤務やボランティア活動を行いたいか尋ねたところ、「短時間勤務とボランティア活動の両方を行いたい」(14%)、「短時間勤務を行いたい」(31.5%)、「ボランティア活動を行いたい」(12.8%)、「興味がない」(32.2%)という結果になった。ボランティア活動を行いたいと回答した者を対象に、有償と無償のどちらを希望するかを尋ねたところ、「無償」が38.6%で「有償」の33.2%を上回った(図表2-4-3)。

図表2-4-3 短時間勤務やボランティア活動を行いたいか

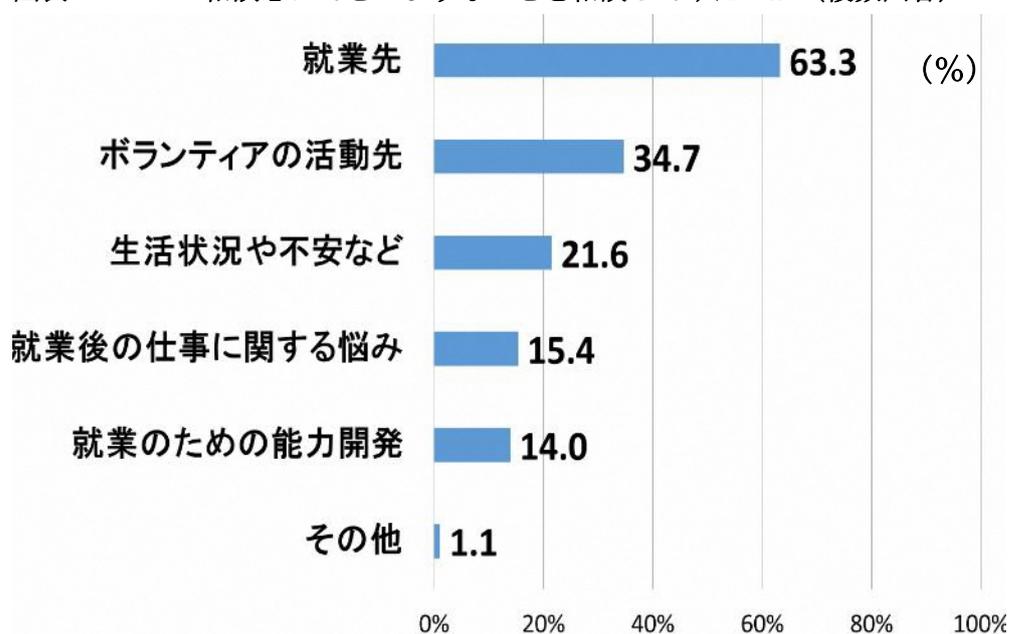


(4) 就業先やボランティア活動の相談窓口について

全ての回答者を対象に、就業先やボランティア活動など個人の生活状況に合わせた活躍の場を紹介する相談窓口があった場合に、相談窓口を利用するか尋ねたところ、「利用する」と回答した人が 357 名 (33.9%)、「利用しない」が 268 名 (25.5%)、「わからない」が 428 名 (40.6%) であった。

相談窓口があったら「利用する」と回答した人を対象に、どのような相談をしたいか尋ねたところ、「就職先」が 63.3% で最多となり、次いで「ボランティアの活動先」(34.7%)、「生活状況や不安など」(21.6%) となっている (図表 2-4-4)。

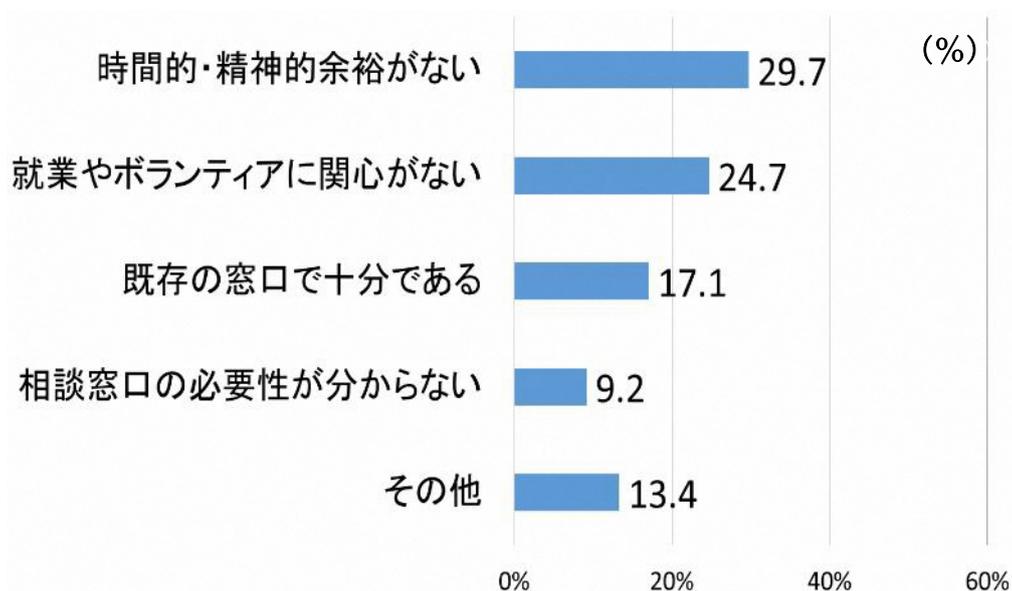
図表 2-4-4 相談窓口でどのようなことを相談してみたいか (複数回答)



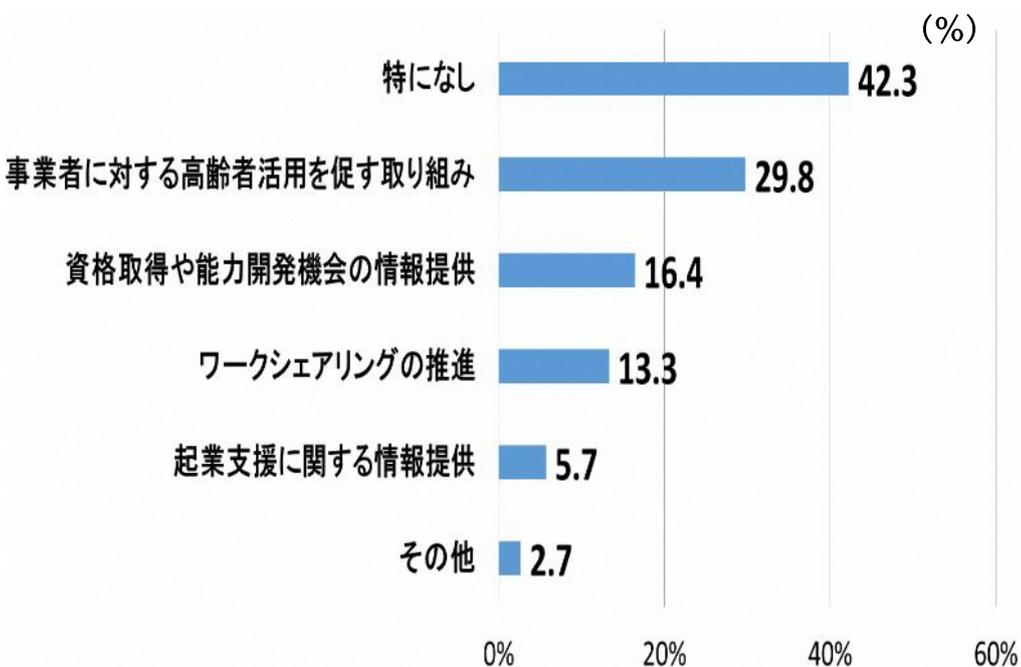
他方で、相談窓口があったとしても「利用しない」もしくは「わからない」と回答した人を対象に、その理由を尋ねたところ、「時間的・精神的余裕がない」(29.7%)、「就業やボランティアに関心がない」(24.7%)、「既存の窓口で十分である」(17.1%) 等が 20% 前後の水準を示している (図表 2-4-5)。

また、全ての回答者を対象として、相談窓口に限らず、就業やボランティア活動等で行政に望むサービスはあるか尋ねたところ、「特になし」が 42.3% で最多となっているが、「事業者に対する高齢者活用を促す取り組み」の 29.8% や、「資格取得の支援や能力開発機会の情報提供」の 29.8%、「ワークシェアリングの推進」の 13.3% において、行政に対する要望が出されている (図表 2-4-6)。

図表 2-4-5 相談窓口を利用しない理由（複数回答）

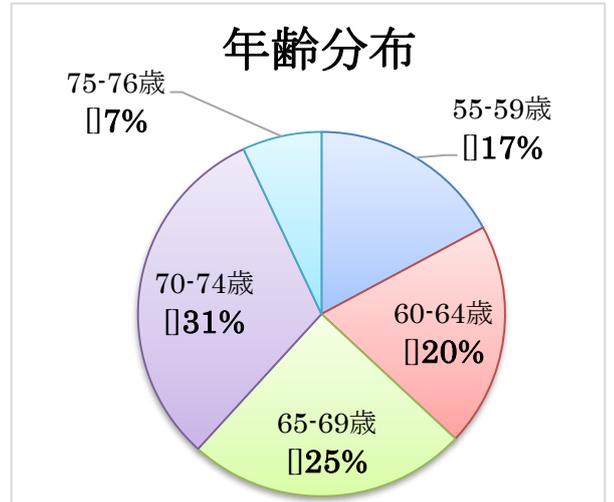


図表 2-4-6 相談窓口に限らず、就業やボランティア活動などで行政に望むサービスがあるか（複数回答）

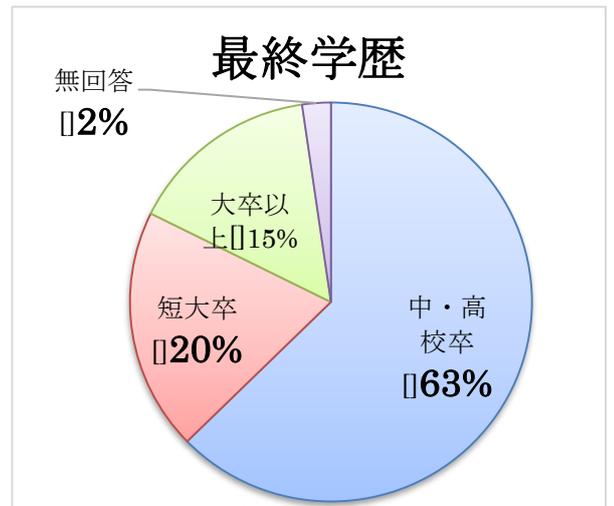


付属統計表（個人属性）

(性・年齢)	人数		
	男	女	男女計
55-59歳	102	87	189
60-64歳	107	112	219
65-69歳	128	145	273
70-74歳	161	181	345
75-76歳	36	41	77
性・年齢不詳			28
合計	534	566	1131



(地域)	人数	%
牛窓町	208	18.4
邑久町（裳掛・玉津）	88	7.8
邑久町（裳掛・玉津以外）	465	41.1
長船町	353	31.2
無回答	17	1.5



(子どもの有無)	人数	%
いる	985	88.0
いない	115	10.3
無回答	31	2.7

(同居家族)	人数	%
一人暮らし	145	12.9
配偶者	756	67.0
あなた又は配偶者の親	155	13.7
子ども	455	40.3
子どもの配偶者	92	8.2
孫	119	10.5
兄弟姉妹	13	1.2
その他の親族	14	1.2
その他	19	1.7

